

編集後記

<編集顧問>

鈴木 秋悦
武田 佳彦
青野 敏博

<編集委員>

岡井 崇
神崎 秀陽
倉智 博久

昨年夏に、冬季オリンピックが開催されたイタリア北部の町トリノに行きました。まだ、町のあちこちに写真が掲示されたりして、オリンピックの余韻が残っていました。トリノは河畔に開けた美しい町ですが、ヴァレンチノ公園という大きな公園があり、市民の憩いの場となっています。私も広い公園を歩いてみたのですが、その折、家の壁にボートのオールのエムブレムが飾られている家を見つけました。私は大学時代、ボート部でずいぶん熱心にボート競技に打ち込んだので大変興味を引かれ、ずかずかとその家に入ってしまった。その家の庭には、競技用ボートがあり、町のボートクラブだということが分かりました。クラブハウスには立派なホールがあり、そこには数々の栄光の歴史を物語る写真やトロフィーが多く飾られていました。ゆったりとしたホールはバーとレストランになっており、私もビールを飲ませてもらいました。

私たちの大学の合宿所といえば、本当に汚いお粗末な建物で、まったく味気のない施設でしたから、あまりの違いに驚きました。こんなすばらしい環境で練習できれば、楽しいし、強くもなるだろうと感心しました。このようにいろいろなスポーツが、1つの文化として町に根付き、伝統を積み重ねて強いチームが作られ、また、市民のスポーツ活動を支えていることも実感しました。

最近、メタボリックシンドロームに関心が集まり、日本でも国民の健康増進のためにスポーツ振興に取り組むとの政府の見解が出されています。われわれがもっと、日常生活でスポーツを楽しむ健康を増進させるには、身近な施設の充実や時間的な余裕とともに、ヨーロッパのサッカーやボートなどのクラブのように、さまざまなスポーツクラブが市民に受け入れられ、町の一部となることも重要かも知れません。

(倉智 博久)